



れいめい高校

- 所在地 薩摩川内市隈之城町2205
- 校訓 不屈不撓
- 学科 (全学科、男女共学)
 - ・文理科
 - ・普通科 [みらい探究コース・キャリアアップコース]
 - ・工学科



学校の特徴

- 知育、徳育、体育のバランスのとれた全人教育
- 基礎教科における授業内容の精選
- 達成度に応じた個別指導
- 挨拶、容儀・服装などの基本的生活習慣の確立

変動する社会に柔軟に対応するために「気づき」「考え」「行動する」、この三つのことを常に念頭に置いて、本気になって勉強や部活動に取り組み、目標(ゆめ)実現のために努力する生徒の育成を目指します。また、「強い心」を育むために、学校生活の中でしつけ教育を徹底するとともに、コミュニケーション能力を養い、生徒自ら「明るく・楽しく・元気に」自主的に行動する生徒主導型の学校を目指します。さらに、生徒一人ひとりが持つ潜在能力を最大限に引き出すために、教師が本気で生徒と向き合い、目標の実現に向かって親身になって最後まで支援します。

今月はれいめい高校の4人です

県建コン×鹿高専学生

業界を周知



開講を前に有意義な時間となることを願った室屋委員長＝霧島市の同校

県建設コンサルタンツ協会(坪内己喜男会長)は11月30日、霧島市の鹿

活躍する日を期待

学校側が協会へ業界に関する説明会の開催を要望して実現。都市環境デザイン工学科の4年生が活躍する日を期待した。

講義では、原田隆男委員長(新和技術コンサルタンツ)が計画策定や環境調査などといった各種業務の内容、求める人材像などを説明。同校OBで大福コンサルタンツに勤務する中野誠氏も講師を務め、実例解説(公共事業)としてその業務概要を丁寧に紹介した。

講座を終え、県内就職を目指す立和名圭太さんは「業務そのものが地域貢献につながっていることに魅力を感じた」と笑顔。室屋委員長は「県内コンサル業界で受講した学生が活躍する日を期待したい。今後も(鹿高専での)講座を継続できたら」と語った。



第一工科大、現場視察授業

安全知識など学ぶ

第一工科大学は11月29日、始良市の道路災害防除現場で視察授業を行った。写真：環境エネルギー工学科3年生約20人

が、安全作業における必要な知識や補強土壁工法などについて学んだ。

現場は、山藤建設(岩下吉則社長、始良市)が施工する始良市発注の「久末・薄原線3・3防(災害防除)」。初めに岩下社長が工事概要や作業をする上で必要な新規入場者教育や危険予知活動の重要性などを指導。「安全に対する知識をしっかりと持っておくことが大

切」と述べたほか、補強土壁工法の種類や特長を説明した。また、今回採用されている落石防護補強土壁「ジオロックウォール工法」について、ジオロックウォール工法協会の特別会員・プロテックエンジニアリングと前田工織の担当者が同工法の特長や施工方法、実績などを紹介した。

その後、現場を見学。学生らは普段見ることができない実際の施工現場で、説明を聞きながら質問したり、メモを取るなど熱心に学習していた。同大学の高嶋洋教授は「貴重な機会を設けてもらってとても良かった。まずは現場を見てほしいという思い。基本的知識をいかに現場に生かしていくかが大事」と話した。

輝け若人

私は幼いころから、物を作ることが好きでした。建設業界への興味を持ち出したのは兄がれいめい高校工学科に入学したことがきっかけでした。

入学後、たくさんの体験授業を受けました。産・官・学が連携で実施する「若手育成プロジェクト」では、IC

人に役立つものづくりを



れいめい高校 2年 工学科

大場 愛香 さん

ました。また、川内川の河川敷で電子平板による横断測量の体験学習など最先端技術にも

として、地元専門工事業の方々の木造在来軸組の休憩所工事の全工程にクラス全員で参加

の均し作業などの施工体験をさせていただきました。建設業ガイダンスや

Tの建設機械の操作体験や重機操作の基礎基本を指導してください

触れることができました。リノベーション実習

させていただきました。作業では大工作業をはじめ土間コンクリート

企業説明会も学校内で実施され、建設業界で働く方々のお話を聞き、改めて建設業で働きたいと思いました。

今、工学科全学年で女子は一人だけですが、一切嫌な思いもせず、楽しく勉強ができています。

来年度、就職の視野を広げるために、さまざまな資格試験に挑戦していきます。現在はまだ計算技術検定3級しか持っていないので、今後、小型建設機械車両系や危険物取扱者、2級建築および土木施工管理技士補など多くの資格取得を目標にしていきたいです。

大規模現場に驚き

加治木工高現場見学会



普段みることのできない地下の様子に見入る生徒ら＝霧島市の現地

県建設業協会加治木支部(塚田洋一支部長)は11月29日、加治木工高を校生を対象に現場見学会を実施した。土木科1年生38人(男子37人、女子1人)が普段見ることができない大規模な工事現場を見学し、建設業の役割や魅力を体感した。

生約40人に対して委員ら6人が職務内容や魅力、社会で果たす役割などを伝えた。

講座では、原田隆男委員長(新和技術コンサルタンツ)が計画策定や環境調査などといった各種業務の内容、求める人材像などを説明。同校OBで大福コンサルタンツに勤務する中野誠氏も講師を務め、実例解説(公共事業)としてその業務概要を丁寧に紹介した。

講座を終え、県内就職を目指す立和名圭太さんは「業務そのものが地域貢献につながっていることに魅力を感じた」と笑顔。室屋委員長は「県内コンサル業界で受講した学生が活躍する日を期待したい。今後も(鹿高専での)講座を継続できたら」と語った。

見学会は、次代を担う高校生に地元建設業への就職を促進し、よつと毎年実施。同日は、県始良・伊佐地域振興局建設部から橋口立たたい」と話した。

橋口部長は「担い手育成の一環であり、公共工事の大切さを理解してもらえれば、これを糧にしっかりと勉強し、卒業後は建設関連の仕事に就職し頑張してほしい」と述べた。

オラマによる砂防ダムの役割や必要性を学び、台明寺配水區(中央、清水地区)基幹管路φ700シールド工事(霧島市)の現場では、トンネルを造るミニシールド工法の特長や発進基地の設備(防音ハウス、中央制御管理室、プラント、濁水処理装置等)などを見学。生徒らは大規模な現場を目の当たりにし、その迫力に驚いた様子で「参考になるものばかりで大変勉強になった。今後役に立たい」と話した。

橋口部長は「担い手育成の一環であり、公共工事の大切さを理解してもらえれば、これを糧にしっかりと勉強し、卒業後は建設関連の仕事に就職し頑張してほしい」と述べた。

冠嶽八十八ヶ所巡り申込みは21日まで

いちき串木野ロゲイニング「冠嶽八十八ヶ所巡りウォークラン」が1月15日、いちき串木野市で開催される。参加申し込みは21日まで。

イベントは、お遍路コースや地域のさまざまなスポットを巡る。地図を片手に、点在するチェックポイントをまわり制限時間内に獲得できた点数を競う。コースは、ロング(5時間)とショート(2時間)、一般の部、ファミリーの部、ソロの部がある。

問い合わせは、ユニバーサルフィールド(☎0985・88・1001)まで。